

**製品名: Cot (リン酸化 Thr290) ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab04491**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	60kDa

**抗原情報**

遺伝子名	MAP3K8
別名	MAP3K8; COT; ESTF; Mitogen-activated protein kinase kinase kinase 8; Cancer Osaka thyroid oncogene; Proto-oncogene c-Cot; Serine/threonine-protein kinase cot; Tumor progression locus 2; TPL-2
遺伝子 ID	1326.0
SwissProt ID	P41279
免疫原	抗血清は、Thr290 のリン酸化部位周辺のヒト COT 由来の合成ペプチドに対して産生された。アミノ酸範囲: 256-305

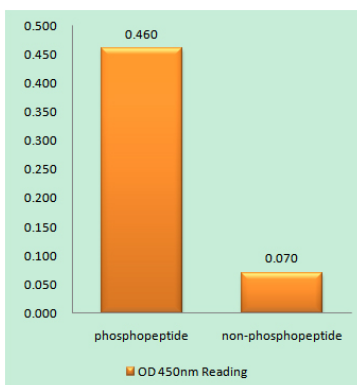
## 背景

この遺伝子は、セリン/スレオニンプロテインキナーゼファミリーのメンバーをコードするがん遺伝子です。コードされているタンパク質は細胞質に局在し、MAPキナーゼとJNKキナーゼの両方の経路を活性化することができます。このタンパク質はI $\kappa$ Bキナーゼを活性化し、核内でNF- $\kappa$ Bの産生を誘導することが示されています。また、このタンパク質はTリンパ球活性化時にTNF- $\alpha$ およびIL-2の産生を促進することもわかっています。この遺伝子は下流のインフレーム翻訳開始コドンを利用する可能性があり、その結果、より短いN末端を持つアイソフォームが生成されます。この短いアイソフォームは、形質転換活性が弱いことが示されています。選択的スプライシングにより、同じタンパク質をコードする複数の転写バリエーションが生成されます。 [RefSeq 提供、2011年9月],触媒活性: ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質。補因子: マグネシウム。発生段階: アイソフォーム1は、細胞周期のS期およびG2/M期に特異的に活性化されます。機能: MEK/ERK経路のTLR4活性化に必須。NF- $\kappa$ B 1/p105のプロテアソームを介したタンパク質分解を刺激することにより、NF- $\kappa$ B 1を活性化できます。細胞周期において役割を果たします。長いフォームは、活性化cotオンコタンパク質よりもはるかに弱いですが、ある程度の形質転換活性を持っています。PTM: 自己リン酸化。アイソフォーム1は主にSer残基がリン酸化され、アイソフォーム2はSerとThrの両方の残基がリン酸化されます。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。STE Ser/Thrタンパク質キナーゼファミリー。MAPキナーゼキナーゼキナーゼサブファミリー。類似性: 1つのタンパク質キナーゼドメインを含みます。サブユニット: NFKB1およびTNIP2と三元複合体を形成します。組織特異性: いくつかの正常組織およびヒト腫瘍由来細胞株で発現します。 ,

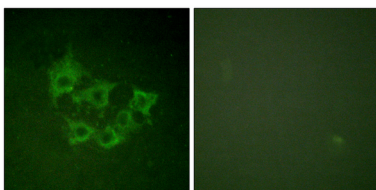
## 研究分野

SAPK\_JNK; アクチンダイナミクスの制御; T細胞受容体; 細胞増殖; 幹細胞経路; Toll様; MAPK\_ERK増殖; MAPK\_Gタンパク質; B細胞抗原

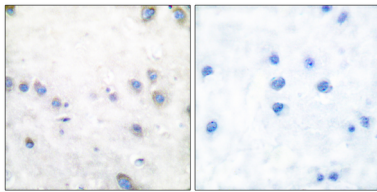
## 画像データ



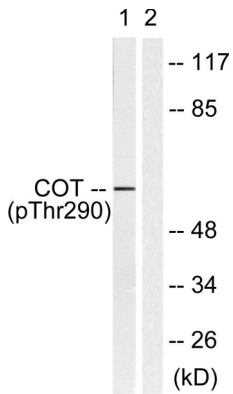
COT (リン酸化 Thr290) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定法 (リン酸化 ELISA)



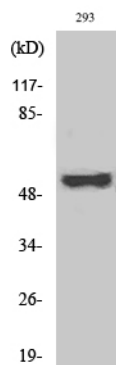
COT (リン酸化 Thr290) 抗体を用いた HUVEC 細胞の免疫蛍光染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした画像です。



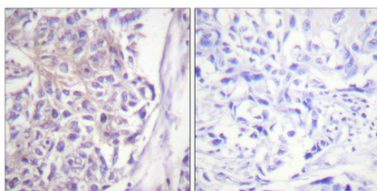
COT (リン酸化 Thr290) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



UV 15' 処理した 293 細胞ライセートの COT (リン酸化 Thr290) 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。



ホスホコット (T290) ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析



パラフィン包埋ヒト乳がんの免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4℃、一晚) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。